

## 『国語表現』シラバス

科 目 名	学 科	学 年	必修 / 選択	単 位 数
国 語 表 現	全 学 科	3 年	必 修	3 単 位

### 1. 科目目標と使用教材

科目目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
使用教材	国語表現（第一学習社） 高校漢字必携（第一学習社）

### 2. 学習計画

学期	学 習 項 目	学 習 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の楽しみを知る。</li> <li>・「文章の書き方」 基礎講座 1</li> <li>・漢字検定直前対策</li> <li>・「文章の書き方」 基礎講座 2</li> <li>・表現の実践 1 スピーチの方法 面接を受ける態度や表現を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンル・形式にとらわれない、自由な発想による表現活動を通して、表現することへの親しみを養う。</li> <li>・わかりやすい文を作るための決まりを身につける。</li> <li>・原稿用紙の使い方について正しい知識を身につける</li> <li>・表現を豊にすることができる修辭法を学ぶ。</li> <li>・漢字検定に合格を目指し、過去問題や分野別問題に取り組み、そのことによって語彙力を高める。</li> <li>・適切な題材や材料を収集し、整理できる。</li> <li>・文章主題を明確にする。</li> <li>・文章の構成を考えて、文章が書けるようになる。</li> <li>・話すこと・聞くことの重要性を理解する。</li> <li>・人前で話す・聞くうえでの注意事項を学ばせる。</li> <li>・面接に対応した態度や表現を身につける。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の実践 2 進路に即した作文を実際に書く 模擬面接</li> <li>・表現の実践 3 通信文の書き方</li> <li>・表現の実践 3 様々な文章の書き方 卒業論文の書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に学習した「文章の書き方」に沿って、進路に即した作文を実際に書くことができる。</li> <li>・面接官と受験生の立場で模擬面接をグループで行い、相互批評をする。</li> <li>・用途に応じた手紙の書き方を知る。</li> <li>・通信文の形式を知り、それにふさわしい文を書くことができる。</li> <li>・様々な文章の形式を知る。</li> <li>・目的に応じ、自分の考えをまとめ、その表現方法を理解する。</li> </ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の実践 4 高校生活の思い出を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習を踏まえ、高校生活の思い出を主題・構成を考えて、豊かな表現で分かりやすく書くことができる。</li> </ul>
<p>・国語の基礎として、年間を通し、語彙力育成を目的に、漢字の学習を取り入れる。</p>		

### 3. 学習方法

表現の授業ですから「書くこと」「話すこと」が多くなります。社会に出てからもコミュニケーション能力として非常に重要視されます。授業中に指示された「作文」「作品」等は必ず期日を守って仕上げるように心がけてください。自分の作品を推敲したり評価してもらったりして書き直すことも上達の秘訣です。また自分の表現能力を高めるためには、他人の作品を評価することも大切になります。そのためにはしっかり「読むこと」「聞くこと」も大切な作業になります。また「ことば」の学習ですから、語句の意味、漢字の読み書きなど基本的な学習を毎日地道に続けることが不可欠です。授業でも使用しますので、国語辞典を常備しておきましょう。ノートは必ず用意し、板書をきれいに書いて覚えたり、復習したりすることも大切な学習です。

### 4. 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に真面目に積極的に取り組み、作品・課題等をきちんと提出しているか。</li> <li>・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫したり、推敲したりして、話したり文章にまとめたりしようとしているか。</li> </ul>
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを持って論理的に意見を述べているか。</li> <li>・相手の考えを尊重して話し合っているか。</li> <li>・目的や場に応じて、言葉遣いなど表現を工夫して話しているか。</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集、整理した情報を正確・簡潔に伝える文章にまとめているか。</li> <li>・目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書いているか。</li> <li>・書くことに役立つため様々な表現についてその効果を吟味しているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の表現の特色について理解しているか。</li> <li>・語句や語彙の成り立ちについて理解しているか。</li> </ul>

### 5. 成績評価

1・2学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查素点 100% (授業内容 + 漢字・語彙力の問題)</li> <li>・ 2学期の中間考查には、夏休みの課題提出点を素点として加える。</li> </ul>				
	期末	<p>〔学期末総合評点〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">定期考查 (素点)</td> <td style="text-align: center;">平常点</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">平常点は出席点・提出物・授業態度・授業中の作品などを総合的に判断して評価する。40～50%を原則とする。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">50～60%</td> <td style="text-align: center;">40～50%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字検定の結果も、平常点として加える。</li> </ul>	定期考查 (素点)	平常点	平常点は出席点・提出物・授業態度・授業中の作品などを総合的に判断して評価する。40～50%を原則とする。	50～60%
定期考查 (素点)	平常点	平常点は出席点・提出物・授業態度・授業中の作品などを総合的に判断して評価する。40～50%を原則とする。				
50～60%	40～50%					
3学期	学年末	<p>〔1年間の総合評価〕</p> $\frac{1 \text{ 学期末評点} + 2 \text{ 学期末評点} + 3 \text{ 学期末評点}}{3}$ <p>但し、3学期末評点は考查素点 50～60% + 平常点 40～50% とする。</p>				

### 6. 生徒の皆さんへ

#### 《履修上の注意》

- ・ 平常点の割合が高いので、課題となるプリント、作品等は期限を守って提出することを心がけ、授業にも積極的に参加すること。
- ・ 適切な用語、表現が使えるよう常に辞書で調べる姿勢を持つこと。

人間は国語を使って表現するですから、日常使っている言葉というものに、もっと関心を持ってください。また、読書をし優れた名文に親しむことによっても、表現力は向上します。そうすれば、論理的な思考ができるようになり、相手に分かりやすく伝えることができるようになります。